

二〇一九年四月二日

枝広げ鳥居を囲む大桜
長命の吾全身に浴ぶ花吹雪
犬ふぐり星と瞬く朝の畦
春の雲へと抽ん出し九輪かな
お喋りも兼ねて吟行野に遊ぶ
園丁ら牡丹に傘をさし行けり

二〇一九年四月二日

長堤の落花畳を踏みゆけり
長堤やいゆくかぎりに花の雲

二〇一九年四月二〇日

朝礼の校庭いまし花吹雪
花の下ここに居るよと杖振りぬ
雨垂れが眠れ眠れと花の茶屋
春愁や鈍色の空眺めては

二〇一九年四月九日

花の雲抽ん出てをる電波塔
大川の砂洲虜とす花筏
万葉の里もとほれば初蝶来
花の雲通りドクターへり離陸
古い母と腕組みあひて花堤

二〇一九年四月八日

花堤老犬乗せてベビーカー
満作や日差し溢るる中庭に
背高のタカラジエンヌら花の道
広々と雲の柵引く大干潟
家苞のぐい呑み選ぶ花の里
花下に笑む病衣のままの一屯
百礫の半ばにベンチ百千鳥
中腹をまだら模様にした桜

二〇一九年四月七日

あるなしの風片栗の花揺るる
囀れる原生林の喬木に
いま芽吹く村の要の大櫓

二〇一九年四月六日

畦草に手を触れをれば初蝶来
囀りや海へ坂なす山の道
万愚節役が当たれば辞めてふ

たかを

董雨

宏虎

やよい

よう子

さつき

たか子

明日香

菜々

さつき

うつき

やよい

やよい

やよい

明日香

毎日句会みのる選・二〇一九年四月一四日